

プレスリリース

令和4年12月5日

報道関係者各位

国立大学法人静岡大学
独立行政法人国立科学博物館

静岡大学・国立科学博物館共同企画展 「テレビジョン技術のはじまりと発展」 開催のお知らせ

国立大学法人静岡大学（学長：日詰一幸）及び国立科学博物館（館長：篠田謙一）は、2022（令和4）年12月13日（火）から2023（令和5）年2月5日（日）までの期間、下記のとおり、静岡大学・国立科学博物館共同企画展「テレビジョン技術のはじまりと発展」を開催いたします。

「テレビジョン（television）」とは、情報通信技術を使って、離れた場所に映像と音声を送り、受像機で再現する放送設備のことで、日本で本格的な研究開発が始まってから、およそ1世紀が経ちました。戦後、実用化されると、広く「テレビ」と呼ばれるようになり、今や4Kや8Kといった超高精細映像が実現するなど、その研究開発は著しい進展を見せています。本展では、技術の結晶とも言えるテレビについて、その原理から研究開発の歴史、先端研究の一例まで、関連資料とともに紹介します。

記

【会場】国立科学博物館（東京・上野公園）地球館2階 常設展示室内

【会期】2022（令和4）年12月13日（火）～2023（令和5）年2月5日（日）

【開館時間】午前9時～午後5時 ※入館は閉館時刻の30分前まで

【休館日】月曜日、12月28日（水）～1月1日（日・祝）、1月10日（火）

ただし1月2日（月・休）・9日（月・祝）は開館

※会期等は変更となることがあります。

【入館料】一般・大学生：630円（団体510円）（税込）、高校生以下及び65歳以上無料

※本展は常設展示入館料のみでご覧いただけます。団体は20名以上。

【お願い】入館前に検温、体調等の確認をし、発熱等がある場合は入館をお断りします。

詳細は、当館ホームページをご覧ください。

<https://www.kahaku.go.jp/news/2020/reservation/reservation.html>

【主催】国立大学法人静岡大学、独立行政法人国立科学博物館

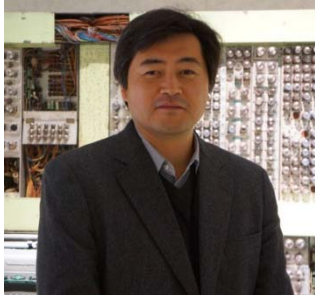
【協力】環境省、公益財団法人高柳健次郎財団

【展示概要】別添の本展チラシ参照

【お問合せ】国立科学博物館 事業推進部 企画展示課 企画展担当

TEL：03-5814-9840、9883、9887 FAX：03-5814-9898 E-mail：kikakuten@kahaku.go.jp

【本展監修者】



産業技術史資料情報センター長

前島 正裕（まえじま まさひろ）

専門は電気技術史。

特に幕末・明治初期において、歴史に埋もれた人物や資料を掘り起こしています。また各研究機関などに残された、散逸の可能性のある資料の調査や、工学系学会における調査・顕彰活動などを通じて、資料の保全に努めています。



静岡大学 電子工学研究所 副所長/教授

青木 徹（あおき とおる）

専門は放射線情報学。

放射線イメージングのためのカメラデバイスを中心に、半導体技術を駆使して、放射線検出器材料、デバイス、信号処理、イメージングなどの研究を進めています。また、高柳記念未来技術創造館の運営を通じて高柳健次郎先生の資料や教えの展示整理やこれらを基にした未来技術創造に向けた活動も進めています。

広報用写真提供

広報用として写真をご用意しております。

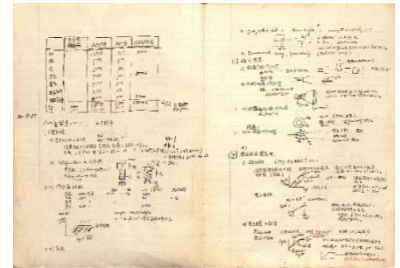
国立科学博物館ホームページの「各種手続き・報道関係資料」→「写真の貸出」からお申込みできます。
(<https://www.kahaku.go.jp/procedure/rent/index.html>)



① 静岡大学・国立科学博物館共同企画展
「テレビジョン技術のはじまりと発展」
ポスター



② 日本で最初の撮像に使われた「イ」の字
(所蔵：公益財団法人高柳健次郎財団)



③ “日本のテレビの父” 高柳健次郎直筆ノート
(所蔵：公益財団法人高柳健次郎財団、
国立大学法人静岡大学高柳記念未来技術創造館)



④ 高柳式テレビジョン装置の光電管
(所蔵：国立科学博物館)



⑤ アイコノスコープ・テレビジョンカメラ
(所蔵：国立科学博物館)



⑥ ブラウン管受像機
(所蔵：国立科学博物館)



⑦ ポータブルテレビ
(所蔵：国立科学博物館)

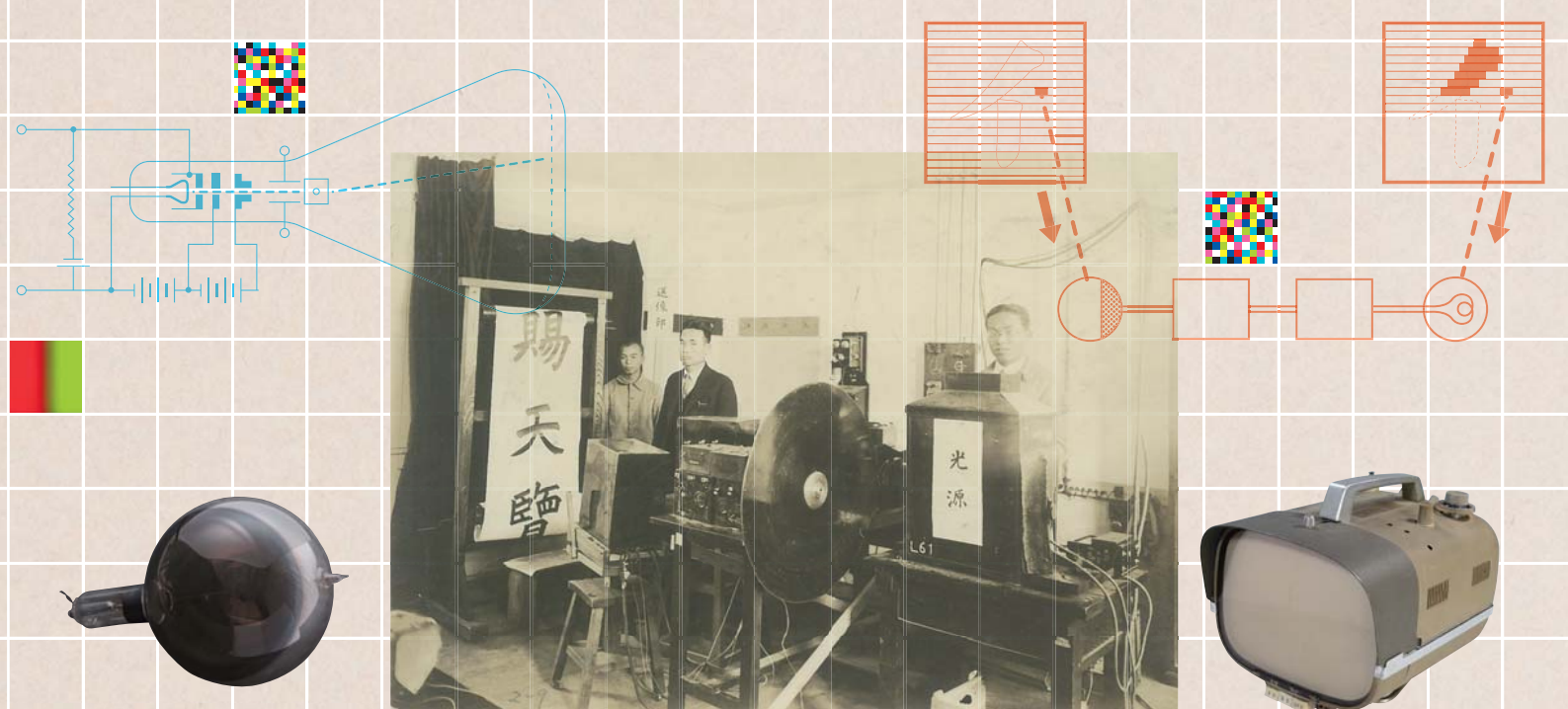


⑧ “日本のテレビの父” 高柳健次郎
(写真提供：国立大学法人静岡大学)

【記事利用の際のお願い】

- * 写真使用は本展の紹介目的のみとさせていただきます。本展終了後の使用はできません。
- * 写真掲載時には、資料のクレジットを必ずご記載ください。
- * 記事のなかで、会期、入館料、開館時間などの基本情報をご掲載いただく場合は、確認のため、下記担当まで校正原稿をお送りください。
- * ご掲載いただいた場合は、掲載誌等をお送りくださいますようお願い申し上げます。

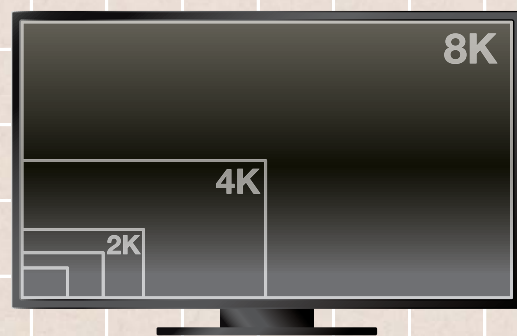
〈お問合せ先〉 国立科学博物館 事業推進部 企画展示課 企画展担当
電話 03-5814-9840、9883、9887 FAX 03-5814-9898
E-mail: kikakuten@kahaku.go.jp 〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20



静岡大学・国立科学博物館共同企画展

テレビジョン技術のはじまりと発展

Special Exhibition
The Beginning and Development of
Television Technology



国立科学博物館 (東京・上野公園)
National Museum of Nature and Science (Ueno Park, Tokyo)

地球館2階 常設展示室内

開館時間: 午前9時～午後5時 ※入館は閉館時刻の30分前まで。

休館日: 月曜日、12月28日(水)～1月1日(日・祝)、1月10日(火)

※ただし1月2日(月・休)・9日(月・祝)は開館

入館料(税込): 一般・大学生630円(団体510円)

※常設展示入館料のみでご覧いただけます。

※団体は20名以上。

※高校生以下および65歳以上は無料。

2022年 12月13日(火) — 2023年 2月5日(日)

[主催] 国立大学法人静岡大学、独立行政法人国立科学博物館

[協力] 環境省、公益財団法人高柳健次郎財団

お問い合わせ Tel.050-5541-8600 (ハローダイヤル) Fax.03-5814-9898

<https://www.kahaku.go.jp/>

※会期等に変更となることがあります。

※入館方法の詳細はホームページをご覧ください。

静岡大学・国立科学博物館共同企画展

テレビジョン技術のはじまりと発展

Special Exhibition
The Beginning and Development of
Television Technology

「テレビジョン (television)」とは、情報通信技術を使って、離れた場所に映像と音声を送り、受信機で再現する放送設備のことで、日本で本格的な研究開発が始まってから、およそ1世紀が経ちました。戦後、実用化されると、広く「テレビ」と呼ばれるようになり、今や4Kや8Kといった超高精細映像が実現するなど、その研究開発は著しい進展を見せています。本展では、技術の結晶とも言えるテレビについて、その原理から研究開発の歴史、先端研究の一例まで、関連資料とともに紹介します。



はじまり

日本で最初の撮像に使われた「イ」の字

1925年から1926年まで、
撮像実験に使用された「イ」の字の雲母板。
(所蔵:公益財団法人高柳健次郎財団)



はじまり

“日本のテレビの父” 高柳健次郎直筆ノート

1945年頃に高柳が使った実験ノート。
技術を個別の要素に分けて几帳面に
書かれていることが分かる。
(所蔵:公益財団法人高柳健次郎財団、
国立大学法人静岡大学高柳記念未来技術創造館)

はじまり

高柳式テレビジョン 装置の光電管

光の明暗を電気信号に変換する真空
管。1930年代前半に開発された高柳
式テレビジョン装置で使用された。
1936年から国立科学博物館の常設
展示で展示されていた。



はじまり

アイコノスコープ・ テレビジョンカメラ

アイコノスコープと呼ばれる、光を電気
信号に変える特殊な真空管を使用した
テレビジョンカメラ。1937年頃、日本放
送協会技術研究所製。



発展

ポータブルテレビ

直視型では世界初と言われるオー
ルトランジスター式テレビ。1960
年、ソニー製。



実演展示

懐かしのブラウン管テレビの展示や、8K超高精細映像を大型モニターで上映します！



アクセス

- JR「上野駅」公園口から徒歩5分
- 東京メトロ銀座線・日比谷線
「上野駅」7番出口から徒歩10分
- 京成電鉄「京成上野駅」正面口から徒歩10分
※当館には駐車場および駐輪場はございません。

お問い合わせ

国立科学博物館ホームページ
<https://www.kahaku.go.jp/>
〒110 8718 東京都台東区上野公園7-20
TEL 050-5541-8600 (ハローダイヤル)
FAX 03-5814-9898

※所蔵が表記されていない資料は、国立科学博物館の所蔵品です。

“日本のテレビの父”



高柳 健次郎 (1899~1990)

静岡県浜名郡和田村(現浜松市)に生まれる。
1921年、東京高等工業学校(現東京工業大
学)附設工業教員養成所を卒業。1924年、浜
松高等工業学校(静岡大学工学部の前身)に
赴任し、テレビジョン研究に着手する。1926
年、雲母板上に書いた「イ」の字を、世界で初め
てブラウン管上に電子的に表示することに成
功した。1927年には真空管式の撮像管の特
許出願を行うなど、その後は電子式テレビジ
ョン放送の実現・発展に貢献した。



・入館前に検温、体調等の確認をし、発熱等がある場合は入館をお断りします。
・入館中はマスクを着用し、咳エチケットを心がけてください。
※入館方法の詳細等については、当館ホームページをご覧ください。
<https://www.kahaku.go.jp/>